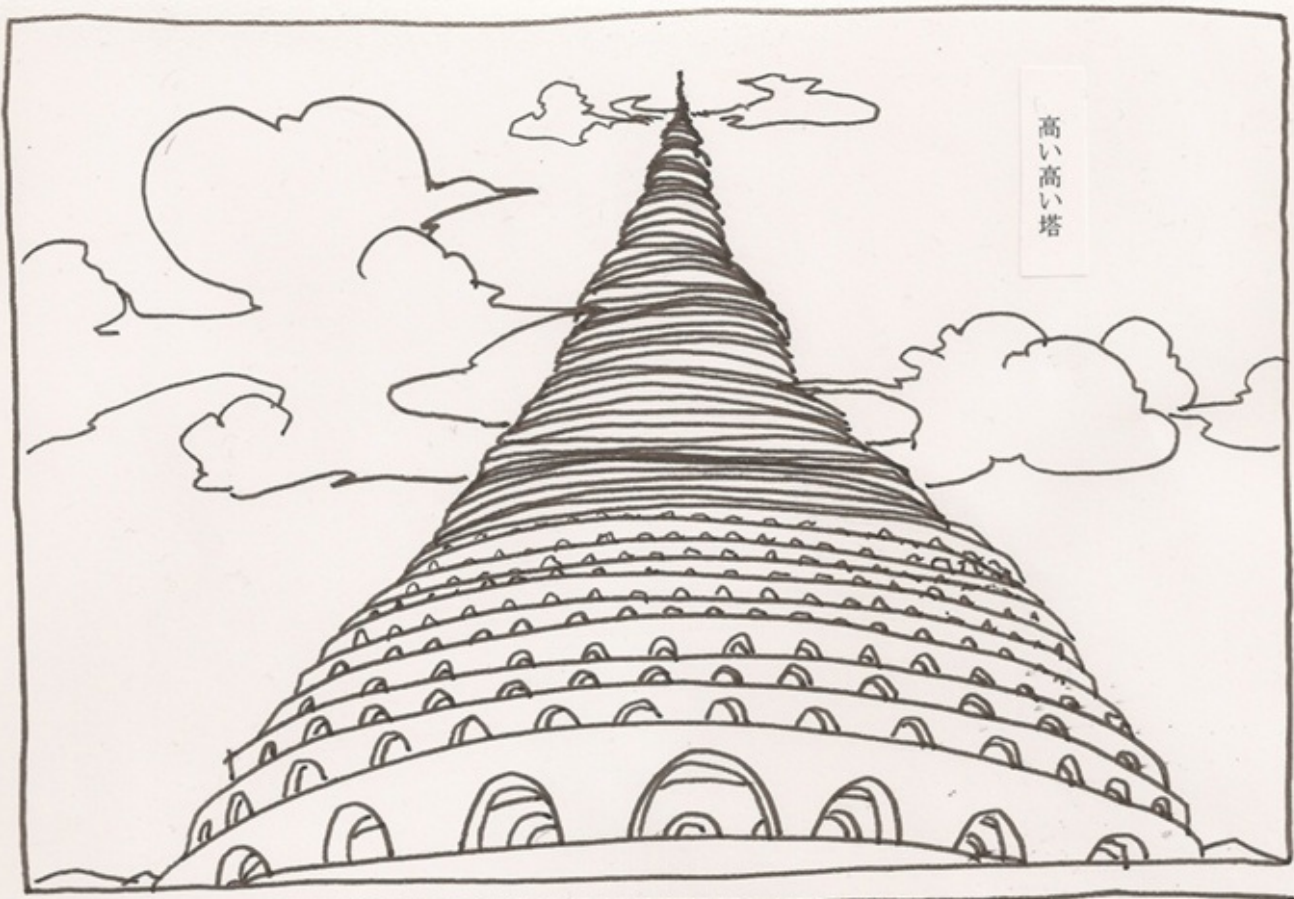
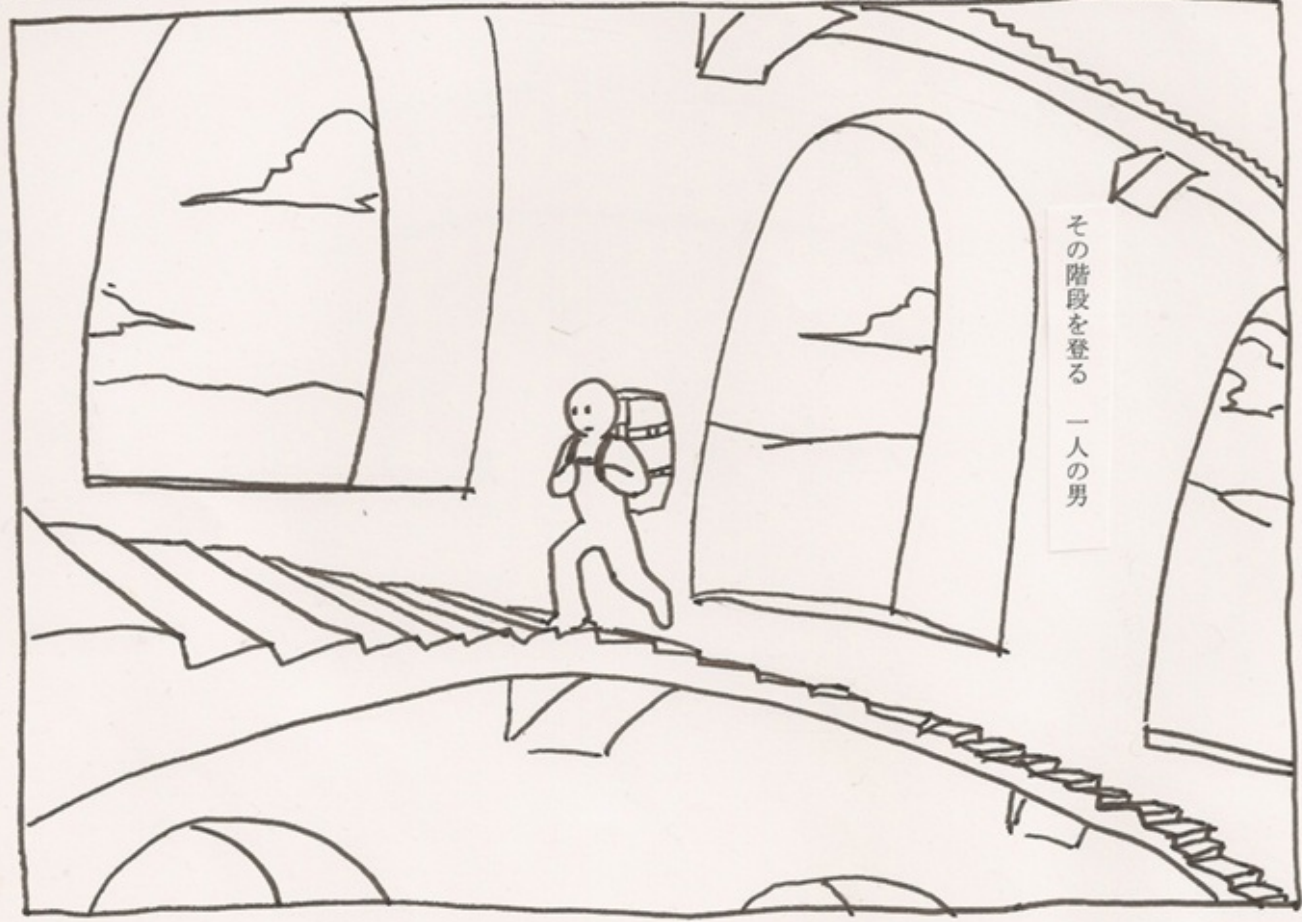


作 西 坂 來 人



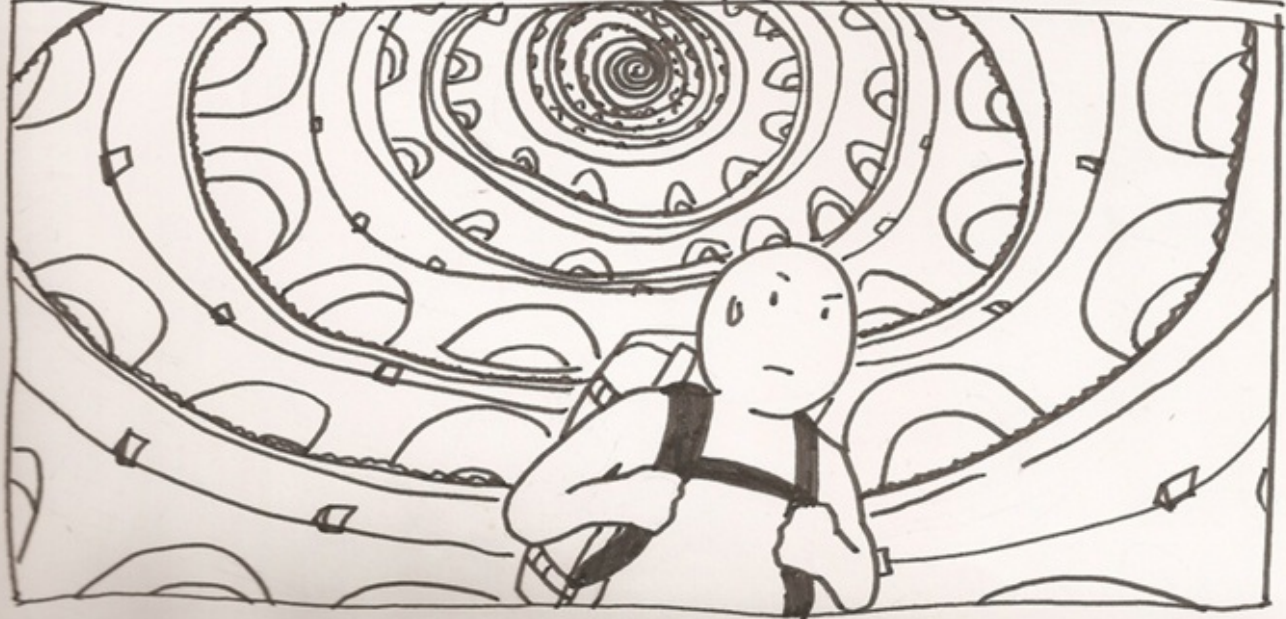
高い高い塔



その階段を登る 一人の男



背中には重い荷物を背負い
黙々と登る



あれは少年時代――

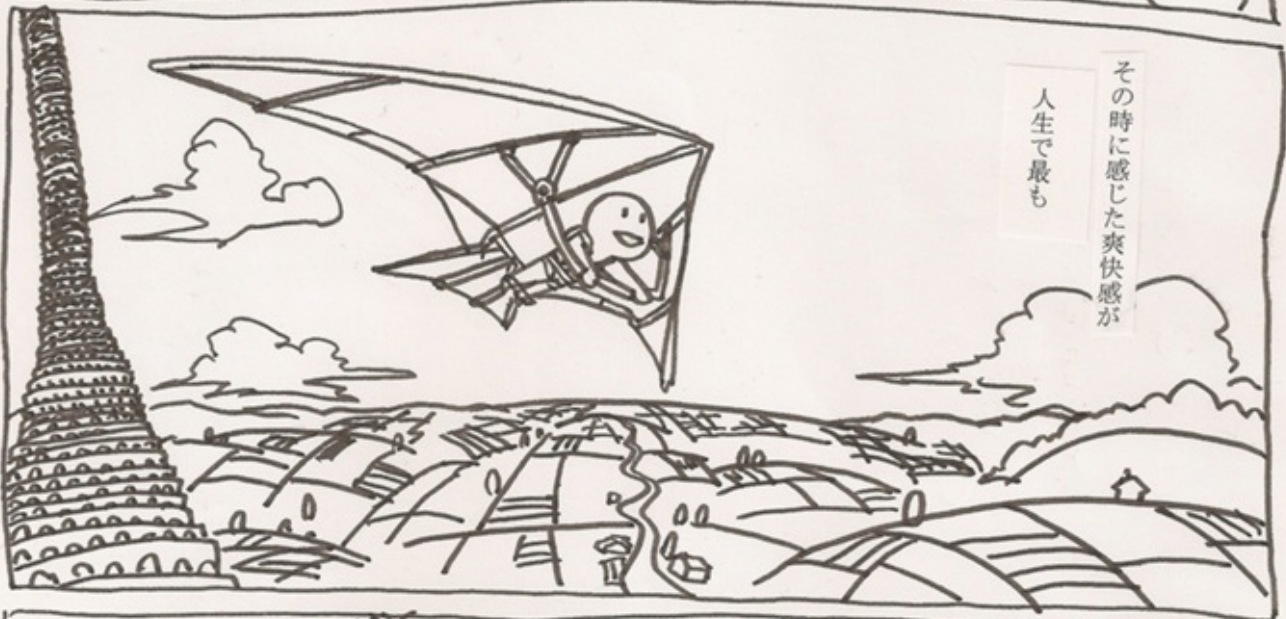
少年は塔の中腹から

飛んだ事がある。

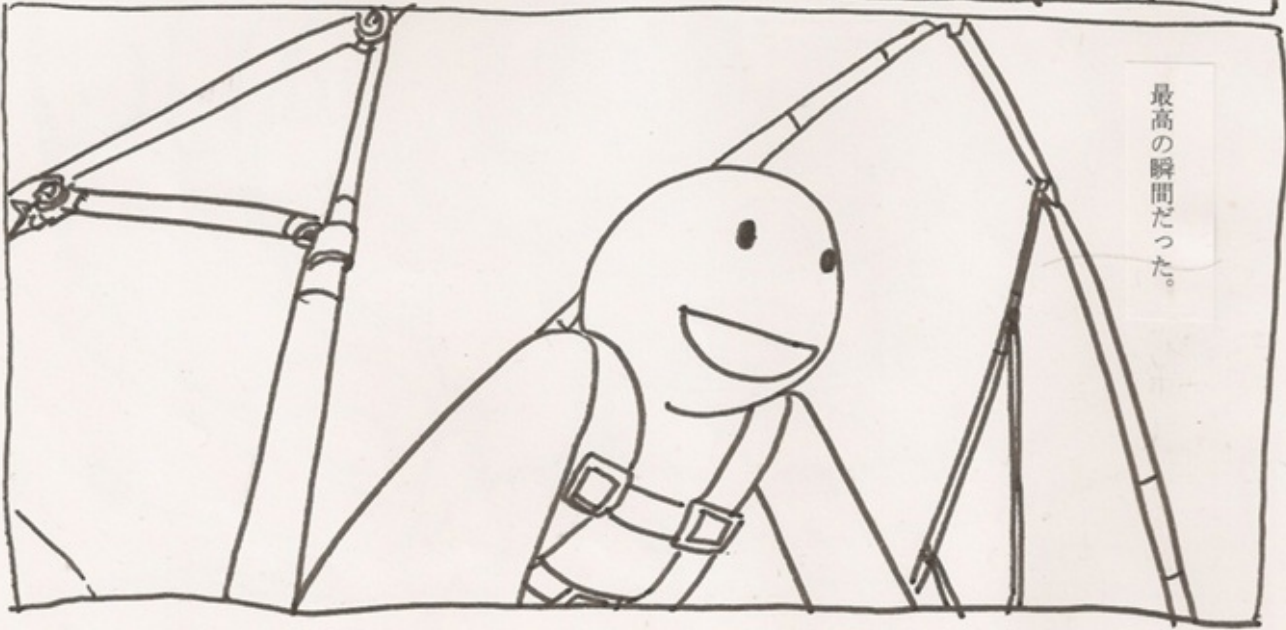


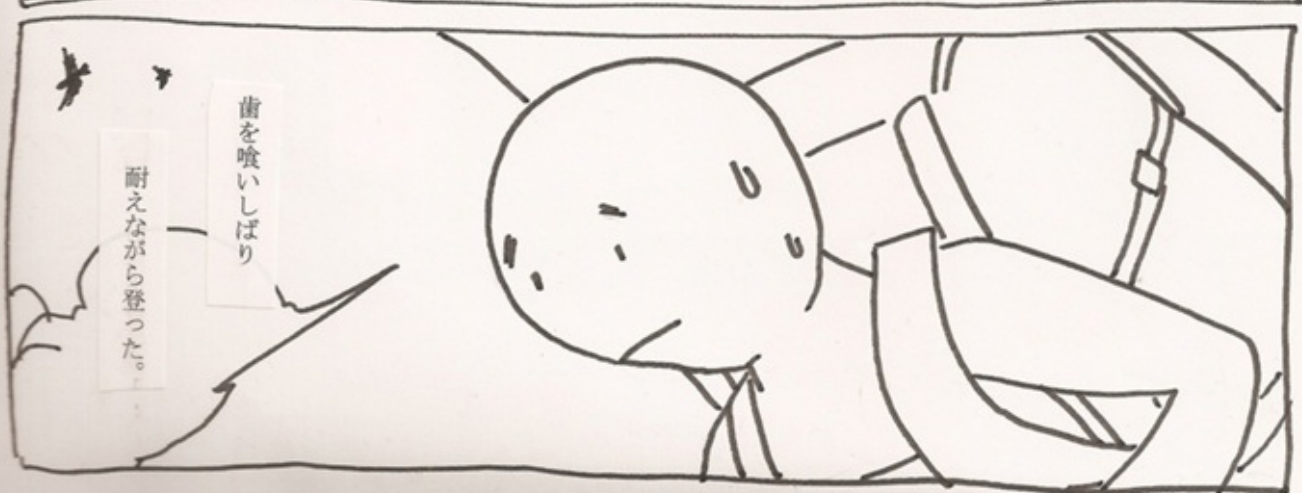
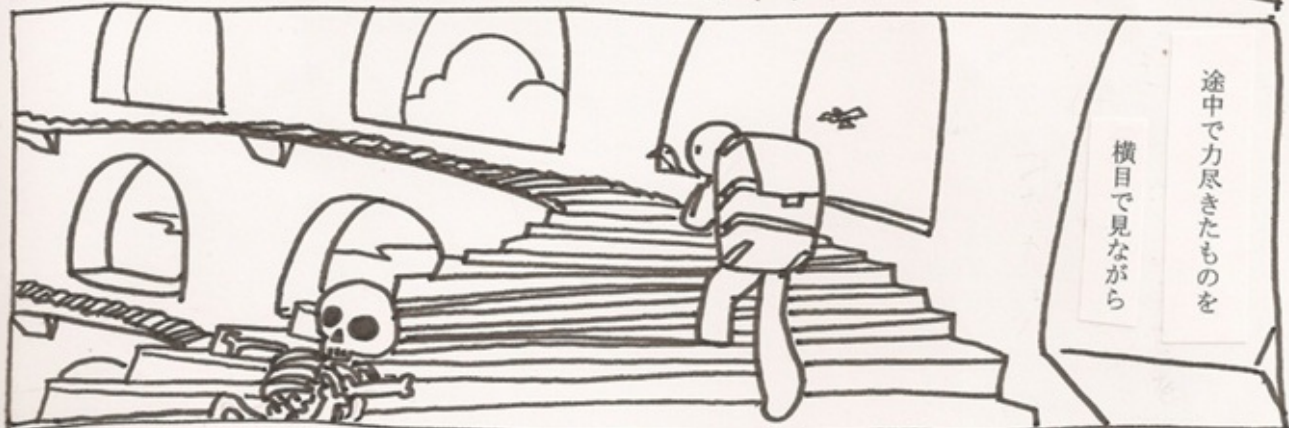
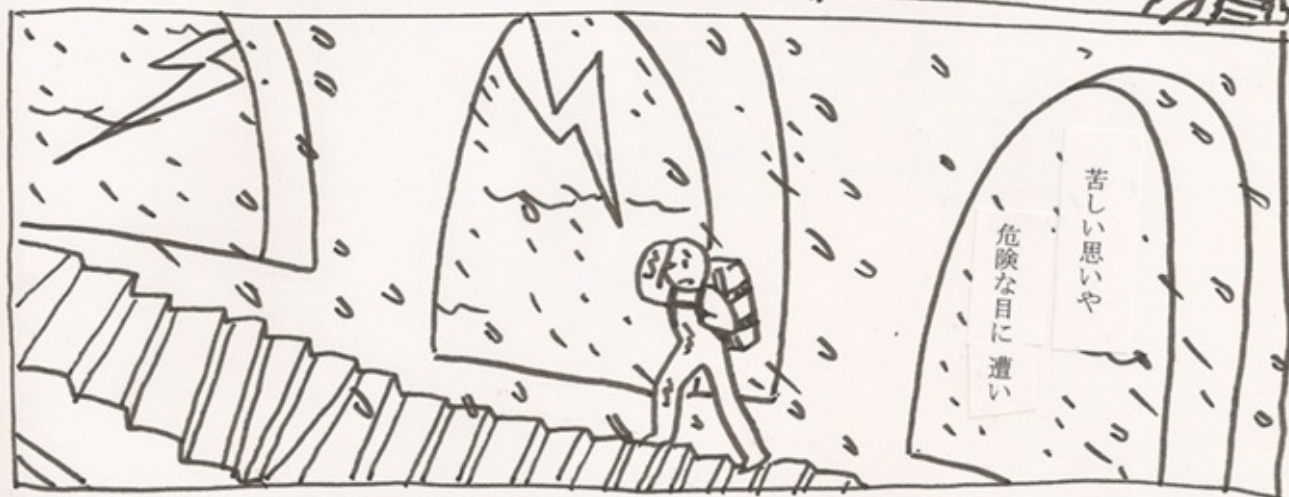
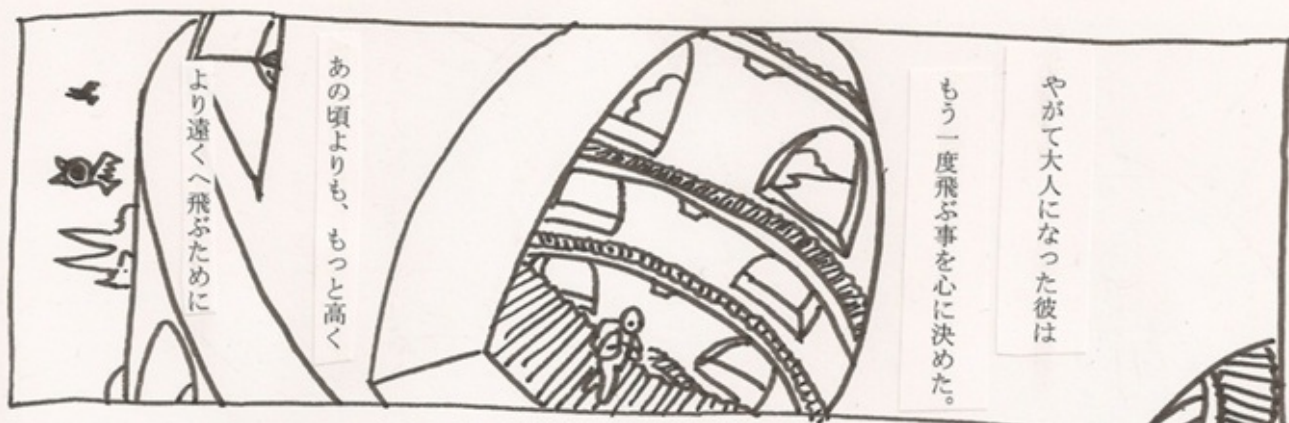
その時に感じた爽快感が

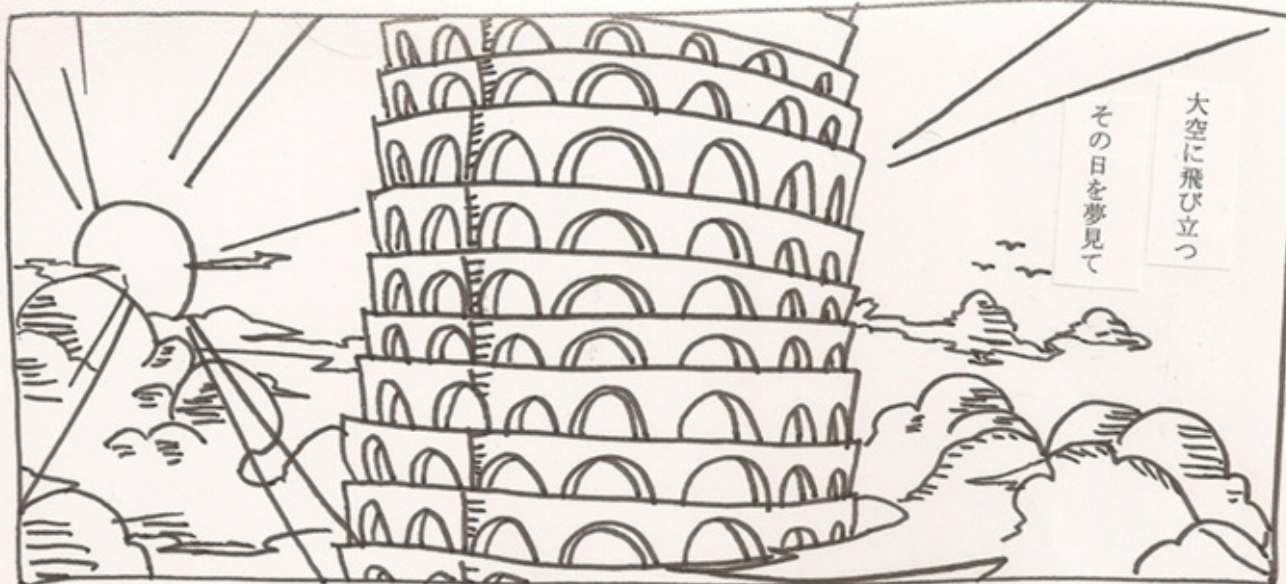
人生で最も



最高の瞬間だった。

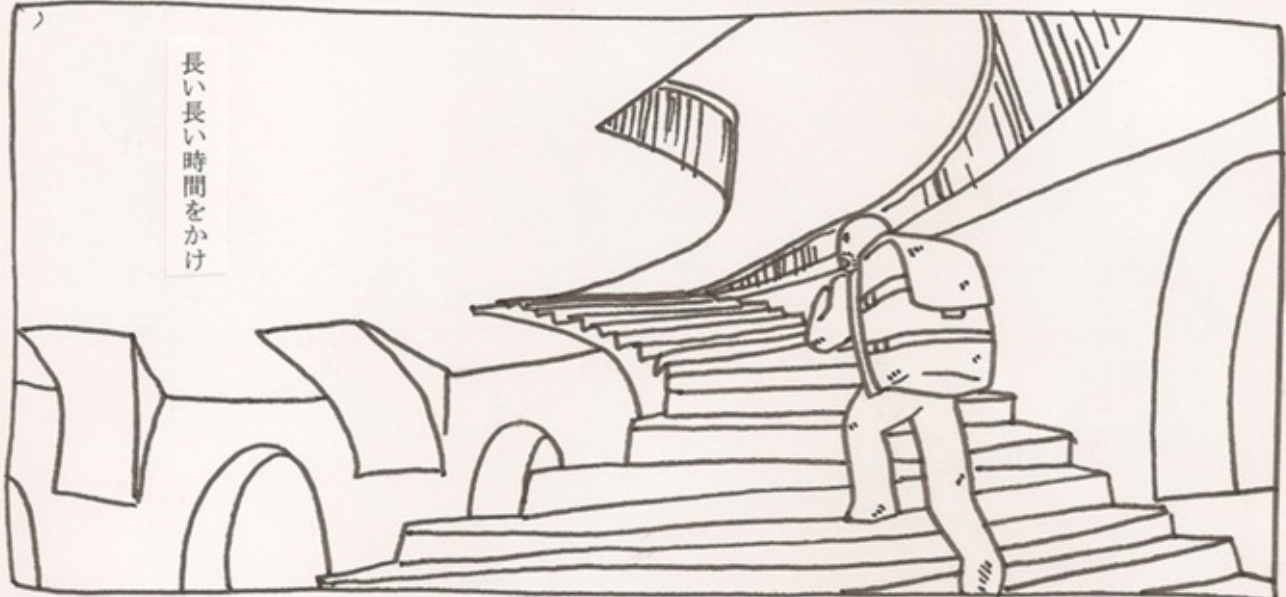




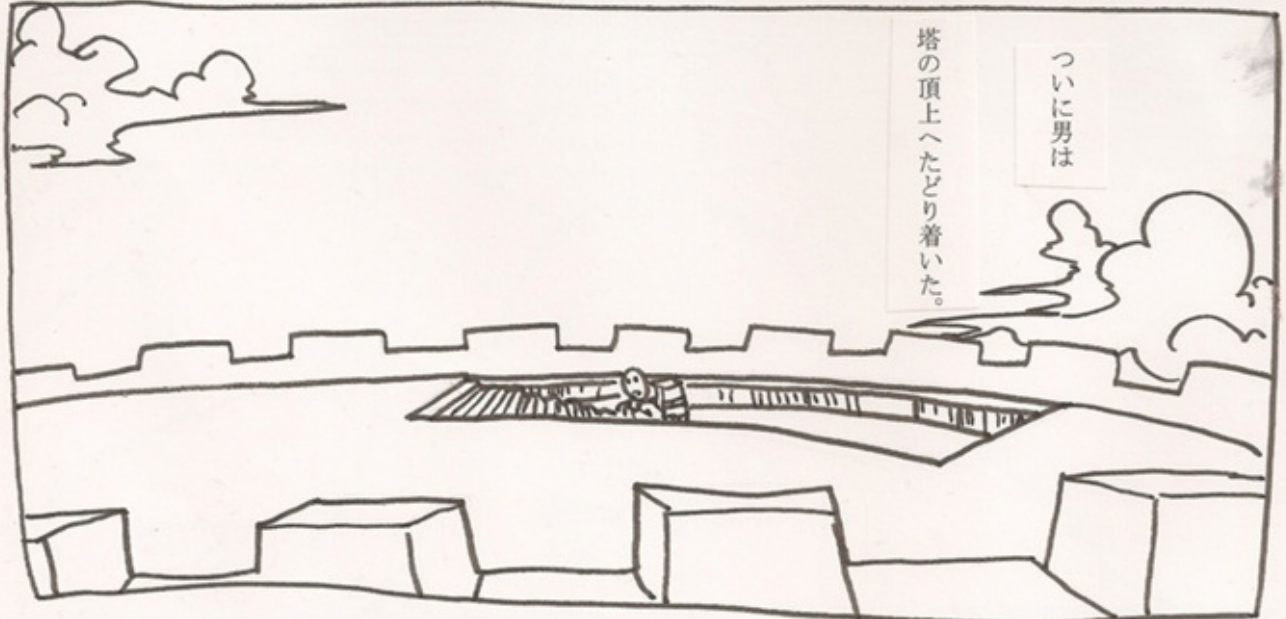


大空に飛び立つ

その日を夢見て



長い長い時間をかけ



ついに男は

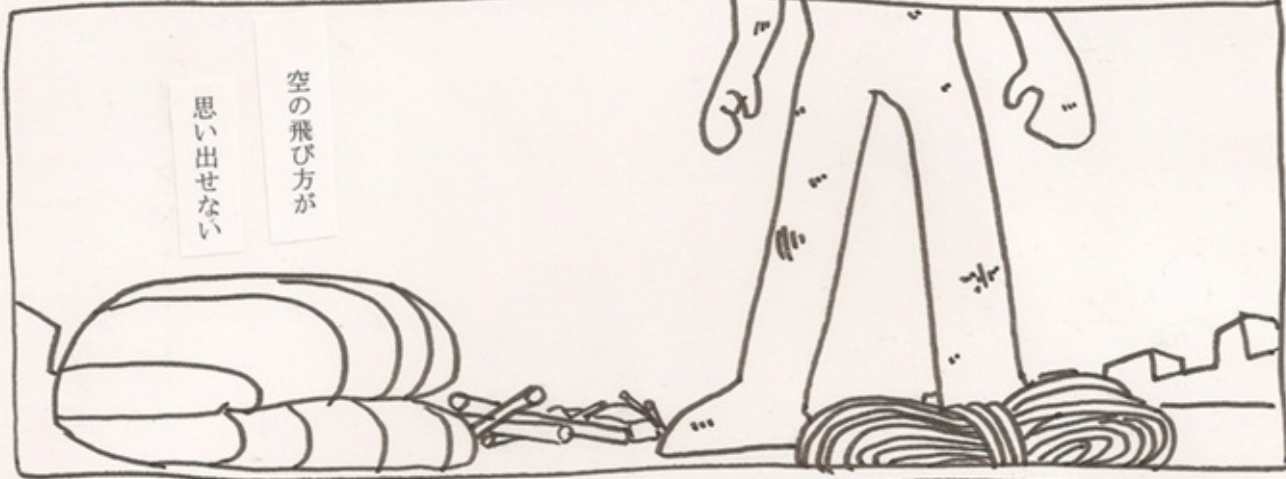
塔の頂上へたどり着いた。

組み立て方が思い出せない



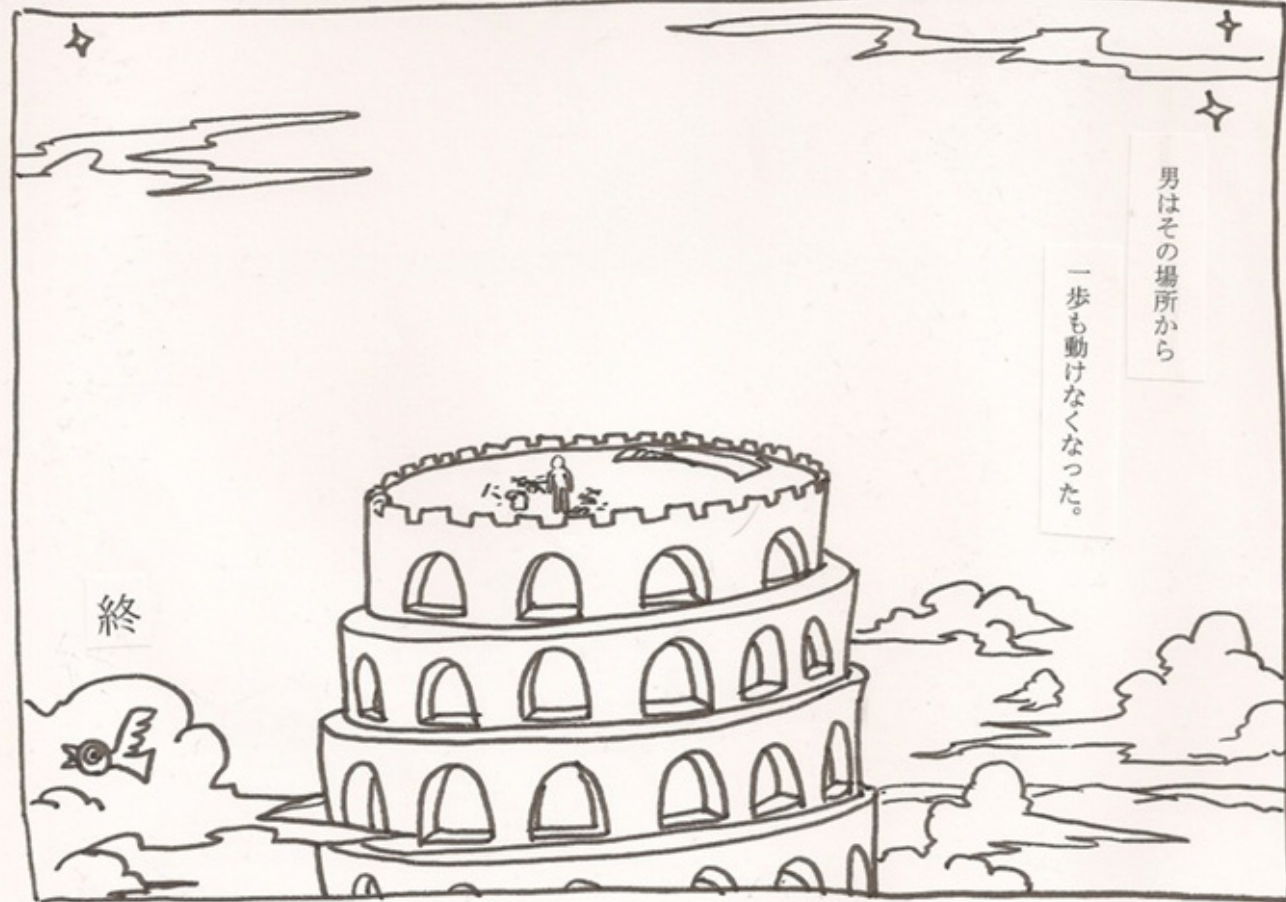
空の飛び方が

思い出せない



男はその場所から

一歩も動けなくなった。



終